

# 桜川文芸

## 俳句

【大和俳句愛好会】

熱き茶をすする朝餉や涼新た

鈴木 つぎ

ゆさゆさと稲穂揺らして風豊か

田中はつひ

命ある事に感謝や著<sup>しやが</sup>我の花

代田 とし

記念樹も老いて緑陰つくりけり

皆川 和子

夏の宵成長確か帰省の子

齊藤与誌江

紫陽花や裳裾豊かな観音像

安達 幸子

【桜川岩瀬俳句会】

群なして空いっばい赤とんぼ

菊地 すい

紫苑咲き友呼ぶ如くゆらぎおり

大関しづ子

芙蓉咲き小庭の朝をにぎわいぬ

上野 好江

燃えつきて濃闇に星の尾をひきし

永瀬 ちい

秋草や歴史にふれる吟行会

細谷 充子

盆柵のくずして広き仏間かな

長井 冬扇

## 短歌

【やまと短歌会】

やはらかき幼き命抱くため荒れし両の手

浄めゐる朝

鈴木 とみ

豊作も百姓嘆きの安値なり遠近に響くコ

ンバインの音

栗崎よしの

野あざみを愛せし人のゆきし街灯の下に

闇深みゐる

野村 幸男

約束のおもい膨らむへ切り通し空の碧

さに萩のはなやぐ

中島 龍子

野仏に軽く一礼刈田道を夫と歩みぬ夕映

えの中

北条 正子

赤とんぼかえでの葉先に止まらんと行き

つ戻りつ風に流さる

高橋ミツエ

【岩瀬短歌会】

品のよきをみな二人が伝道書たずさえ来

たる日曜の朝

小林美瑛子

梅雨にぬれし傘の重しも栗の花の匂いま

つはる雫を払ふ

五月女静江

雨間に夫と梅取りししづく垂る枝を引き寄せ丹念にもぐ

鈴木美津子

植えられし早苗は株も張りて来て日毎緑の濃くなりけり

大久保登美江

日暮れ方下り来れる坂道にえこの白花地面を隠す

広沢日出子

灯火<sup>あかり</sup>ともし夕べを走る「猫バス」のよう

な列車が水張田に浮く

渡辺しな子

小綬鶏の親へ子の歩みほほゑましたどたど続く遅れむとして

滝井 幸子

汝と共に逝きたきものを「母子の歴史」胸に抱かせ 声あげて哭く

小林 むら

【岩瀬秋歌会】

病みて知る臥す事辛く長かりき家族の介護しみじみ嬉し

長谷川玲子

積年の重い遥かに過ぎ去りし蒼き山並今も変らじ

安達すみ子

お筑波の頂かすみ二波の霧うすれゆき勇姿あらはる

石川 喜代

有料広告掲載募集中!

お問い合わせは、秘書広報課へ ☎58-5111・75-3111、内線1268

広報 さくらがわ



あなたの描く想像を現実に  
より綺麗に より美しく  
あなたと感動を繋ぐ存在でありたい。

株式会社 デジタル印刷

TEL.0296-54-2626(株) FAX.0296-54-2724